

# 【おじちゃんサンタのプレゼント】

H 24年11月

「えっ、一人に一冊づつ!!」と、ちょっとおどろきました。さつそく家に帰つてか  
一家庭に一冊でもありがたいのに……でも、家に帰つて一人

一冊の意味がわかりました。

帰つて早々、夕食もとらず「おじちゃんせんせいの本読んで、  
読んで」と子ども達。一人の絵本を手に取り2人の子どもに  
読み聞かせ。読み終わり「さあ、食事」と、立とうとする  
もう一人が自分の持っていた絵本を見せて「今度はみれね」と  
言う。私には同じ絵本でも子ども達には、それぞれの絵本  
なんだなと気付かされました。双子なので、ついつい同じもの  
は1つでいいんじやないと考えがちな私。この絵本をいた  
だいたことで、子ども目線に立つという大切な事に気づくこ  
とができました。いただいた絵本は、それぞれ子どもが巣立  
つ時、持たせてやりたいと思います。

素敵なお絵本ですね。読んでいくうちに、いろいろな事を思い  
出しました。たくさん的人にぜひ読んでもらいたい。

手に取つてみると「ああやつとできた」という思いと、  
「早かつたなあ」という思いがあり、おじちゃんの思い出や  
市川先生からの絵本製作の経過報告の姿が走馬灯のように  
かけめぐつてきました。そして、おじちゃんとの大切な思い  
出をこんなに素敵な絵本にしていただけて、感謝の気持ちで  
いっぱいです。

・山本先生の講演会も聞いたので、いつも以上に絵がきになり、  
よくみてたら、小さなバッタがいたり、発見があつておもし  
ろいです。

心暖まる絵本を有難うございました。さつそく家に帰つてから、おばあちゃんも交えてみんなで読みました。ときおり「クスクス」と笑いながら、楽しそうに読んでいました。

お気に入りの一冊となつたみたいです。お兄ちゃんも聞いていて、読み終わると「あーだから保育園は花がいっぱいあるんだね」とはなしていました。

あとがきを読んでいたらまたおじちゃんの姿がよみがえつて  
きて目頭が熱くなりました。本当に不思議ですが、おじちゃんがいつまでも心の中に生きています。このすてきな本によりおじちゃんの心が世界に飛び立つてくれる信じています。

おじちゃんの様にやさしい本で、おじちゃん先生の存在の大  
きさをあらためて実感しました。

夜寝る前に蒲団の中で読みました。美喜もじつと聞いていて  
「みきも赤ちゃんの時、おじちゃんにいっぱいだっこしてもらつたよ」となつかしそうに云っていました。これから大きくなつても美喜の心の中にやさしいおじちゃんがいてくれると思います。

涙が出てきました。本を手にしたよろこびと、おじちゃん先  
生の心の大きさを強くかんじました。二人とも大好きな本で  
けいたくんをしゅうへいくんにして読むと、すごくよろこん  
で空に手をふつて、おじちゃんに伝えていました。